

第3回フィロソフィア「新・純粋知性批判の必要性——現代のソフィスト批判」

2005-6-5

1 形而上学と形而下学

辞書的定義(広辞苑)

形而上学(meta-physics)

- ①「自然学の後に置かれた書」(アリストテレス死後の編集)
- ②アリストテレスのいう第1哲学
- ③「現象を超越し、またはその背後に在るものの真の本質、存在の根本原理、絶対存在を純粋思惟により或いは直観によって探究しようとする学問。神・世界・靈魂などがその主要問題」

形而下 ①易経 形而上者謂之道、形而下者謂之器

- ② the physical 自然一般・感性的現象、すなわち時間・空間のうちに形をとって現れるもの

形而下学 physical sciences かつて広く感性的現象を対象とする学問を指していった語。

人間中心主義・相対主義・懐疑主義・経験主義・実証主義・功利主義・(自然)科学主義・経済主義

2 哲学史の整理

哲学者(万人哲人主義)／哲学研究者

全哲学史はプラトンの注釈(ホワイトヘッド)——プラトンから始める意義

(1) 範型としての古典哲学:ソフィスト批判と靈的啓蒙

形而上学M／形而下学P

開示—直観型M1:吟味—整序型M2(m)／経験論型P1:唯物論P2:反—形而上学P3

ギリシャの「啓蒙主義」P1 自然学→原子論

ソフィストP もともとは「知者」「賢き人」「あることに熟達した人」、巡回・謝礼・教師、法廷弁論・修辞術

→価値の相対性、詭弁家の意味に。

プロタゴラス 人間が万物の尺度

人間中心主義・主観主義・相対主義

『ゴルギアス』

技術／迎合・経験 知識(真知)／臆見(偽知)

→政治術 (cf. PR、マスコミ、アナウンサー等)

プラトンの時代には政治が重要だったので、政治術に焦点が合わされているが、今日では経済にも当てはまる。——経済術。art／technique

快≠善 (『プロタゴラス』では、快=善 例外)

カリクレス カこそ正義

ノモス ビュシス

規範の正義ではなく自然の正義

『国家』トラシュマコス 正義とは強い者(支配階級)の利益

—— 力中心主義(力の哲学)

⇔靈的啓蒙

ソクラテス M2(m)

プラトン M1 後期に、実践的・経験的要素→理想主義的現実主義

アリストテレス M2+P1

プラトンのイデア論批判、生成論、目的論的形而上学、経験論とのバランス

可能的状態(デュナミス)→現実的状态(エネルゲイア)

質料因+形相因+作用因+目的因

●プラトン+アリストテレス 存在生成論

●力の哲学/形(形相)の哲学

コスモ ポリタニズム(ディオゲネス)、エピクロス、ストア派、新プラトン主義

(2) 中世哲学:存在論

前期:グノーシス派/テルトゥリアヌス「非合理故に、我信ず」

→アウグスティヌスM1 キリスト教+新プラトン主義

普遍論争

概念実在論(普遍的な概念の存在)M:アンセルムス、アヴェラール、トマス・アキナス(本質と存在の一致)

概念唯名論P(名称のみ存在):ロジャー・ベーコン、ドゥンス・スコトゥス(個体の重視)、ウィリアム・オッカム(個体のみ)

ボナヴェントゥーラ、ニコラウス・クザーヌス(無限、反対の一致)

(3) 近世哲学

大陸合理主義(形而上学)M:デカルト(方法論的懐疑、心身二元論)、スピノザ(汎神論、心身並行論)、ライプニッツ(单子、予定調和)、ルソー

イギリス経験主義P:フランシス・ベーコン(帰納法)、(マキャヴェッリ、ヴィルトゥ)、トマス・ホッブズ(カー万人の万人に対する闘争)、ジョン・ロック(経験論、白紙)、バークリ(素朴観念論)、ヒューム(懐疑論)、スミス、ベンサム(最大多数の最大幸福)・ミル(幸福の質)—功利主義—**近代経済学**(効用)

自然科学の発展 ニュートン物理学

歴史 ヴィーコ、ロマン主義

(4)近代哲学

→総合 ドイツ観念論M カント(M2=m、先天的原理、純粹理性の批判—もの自体への不可知論、実践理性の自律)、フィヒテ(自律的自我) シェリング(同一哲学、根元的同一・絶対的無差別)、ヘーゲル(対理法による絶対精神への展開、人倫)

→ショーペンハウアー(ペシミズム)、ニーチェ(P3、ニヒリズム、「神は死んだ」、力への意思)、**フォイエルバッハ(P2、疎外)—マルクス(P2、P3、唯物史観)—マルクス経済学**

実存主義 キルケゴール(美的・倫理的・宗教的実存)

精神分析 フロイト(無意識)

(1) 現代哲学

現象学 M2(m) フッサール(現象学的還元、志向性)、ハイデガー(現存在、道具連関の世界内存在、本来的存在へ)

実存主義 宗教的実存主義M1 ヤスパーズ

/無神論的実存主義P2 サルトル(自由の刑、アンガージュマン) メルロ=ポンティ(身体的実存)

解釈学 ガダマー(地平の融合)

他者 ブーバー(我と汝、対話)、レヴィナス(他者の顔、全体性の形而上学の批判)

プラグマティズム(道具としての有用性) パース、ジェームズ、デューイ、クワイン

科学哲学 カルナップ(論理実証主義)、クワイン(全面的改訂可能論、ホーリズム)、ポパー(反証主義)、クーン(科学革命、パラダイム転換)

言語哲学 フレーゲ、ラッセル(記号論理学、ライル(カテゴリーの錯誤、心身問題・心の否

- 定)、オーステイン(言語行為)、ウイゲンシュタイン(言語ゲーム、家族的類似、本質主義の否定)
- 構造主義 ソシュール(差異による意味)、レヴィ=ストロース(構造)、アルチュセール(重層的決定)
- ポスト・モダン P3 リオタール(大きな物語の死)、フーコー(生の権力)、デリダ(脱構築)、ドゥルーズ=ガタリ(リゾーム、ノマド、逃走)

(6) 哲学史における並行性

ラ
的イデア論→④プラト

●近代 ①近代の自然科学、イギリス経験論(大陸合理論)→②カントの批判哲学→③ヘーゲルの総合

●現代の課題

(1) (自然)科学主義

・原子論 デカルト・ニュートン→①原子論的世界観→個人主義・社会契約論などへ

・経験論 ①論理実証主義・反証主義、記号論理学 形而上学は「擬似科学・似非科学」

cf.ソフィスト批判とエピステーメー

自然科学主義→社会科学では、先進的とみなされる「経済学主義」

→政治学 公共選択論・合理的選択論など

(イ)唯物主義 現象のみ。物質のみ。

・唯物論 ①フョイエルバッハマルクス→?

(ウ)ポスト・モダンの虚無主義 力の哲学

カリクレス・トラシュマコス——マキャヴェッリ(ヴィルトウ)、ホブズ(コナートウス)、

ニーチェ(力への意思)、ドゥルーズ

形相—本質、意味の否定。

(ア)—(ウ) まとめると、原子論+唯物論(→虚無主義)

→②21世紀の新批判哲学の必要性→③新理念哲学・対理法哲学

3 新・純粹知性批判——現代的「無知の知」

(1) 理性と知性

理性 一般には、感覚的能力に対して、概念によって思惟する能力。

義務・当為の意識(実践理性)を含む。

理性(reason, Vernunft)と知性(悟性 Verstand)

知性(概念的・論理的能力)／直観的理性(ヌース、最高の实在を直観的に認識する高度の認識、イデアの直観)

スコラ哲学 理性(ratio、論証的認識)／智性(intellectus=ヌース)

カント 知性(悟性、範疇や概念形成の能力)／理性(現象界についての知性の作用に統一と体系を与える推理の能力、またこの能力を神・世界などの形而上学的实在についてまで及ぼして少なくとも考える能力、すなわち無条件な絶対的前提にまで遡る推理の能力)

ヘーゲル 知性(悟性、抽象的概念の能力)／理性(対理法による具体的概念の能力)

フィヒテ、ヘーゲル、シェリング 絶対理性、世界理性

純粹理性(カント) 後天的性質を除いたアプリアリな認識能力の全体。すなわち狭義では

感性・悟性と区別されイデーにかかわる統制的な思考能力、広義では純粹直観(空間・時間)・悟性・狭義の理性を含むア・プリオリな認識能力全体を指す。『純粹理性批判』はこの広義の理性の作用に関する反省の書である。(広辞苑)

純粹理性——

(『哲学事典』平凡社)

理性(最広義) 広義の理性は1-1-2から1-3-2まで

1 理論理性(認識能力)

1-1 感性 ●

1-1-1 後天的—感覚

1-1-2 先天的—空間時間(純粹直観)

1-2 知性(悟性、広義)=1-3 理性 ■

1-3 理性(狭義)

1-3-1 知性(狭義、概念の能力) ●

1-3-1 判断力(判断の能力)

1-3-2 理性(最狭義、推論の能力) ●

2 実践理性(意志能力)

2-1 後天的

2-2 先天的

用語法(●を使用)

感性／知性(悟性)／理性(抽象的理性)／**叡智性**(靈的理性・智性)

悟性(仏教的な悟りの連想)は訳語として不適当なので、「知性」とする。

理性は「論証的、推論的理性」(*ratio*)の意味。

知性以上の全てを「智性」(伝統的な *intellect*)と呼ぶ。

叡智性: 対話的—対理法的理性(ブーバー — ヘーゲル)—直観的理性=靈的理性(神的理性)(プラトン ニース) 至高知

カントの場合、純粹理性は形而上学の実在にも及ぶ推論能力であり、この吟味=批判を通じて、独断的形而上学を批判した。これに対し、現代哲学では、「独断的形而上学批判=反—形而上学」が主流であり、理性(純粹理性)自体にも懐疑的な場合が多く、実践理性も想定されないことが多い。だから、これは実践性を伴わない「純粹知性」(理論知性)と呼ぶことができる。このようなソフィスト的な「純粹知性」を批判する必要がある。——この場合の「知性」は一部に「抽象的理性」を含むから、

上記よりも広義の「知性」(■)

知性の傲慢性はテルトゥリアヌスら神学以来の主題

近代 カントの純粹理性批判自体=**傲慢理性批判**

現代 純粹知性批判=**傲慢知性批判**

傲慢・知者=現代のソフィスト

古典的なソフィストと同様に、様々な考え方がその中に存在する。 多

様な「現代」哲学者、科学技術を盲信する科学者等

知性以上の理性や、まして叡智性を求めない。

例: 科学者の知識 知性であって、その根拠や統一性・目的性までは考えない——これは理性の役割

道具的理性批判(フランクフルト学派)→道具的知性批判

(2) 批判方式

1 内在的批判、内在的克服 思想的系列、同一人物の前期→後期

2 演繹的矛盾

- 3 定義矛盾
- 4 反批判

(3) 現代的知性批判

要約すると、近代(自然)科学主義、唯物論、ポスト・モダンの形而上学批判による意味・の剥奪、実践哲学の否定→以上の「臆見」を批判

原子論→全体論、唯物論→形而上学(超越性、靈性)

- 1 功利主義 ベンサム→J・S・ミル(前期→後期 幸福の質)
 マルクス主義→ネオ・マルクス主義(アルチュセール 重層的決定)
 現象学 フッサール(前期→後期 生活世界)
 言語哲学 ラッセル→ウイットゲンシュタイン(前期→後期 言語ゲーム)
 ホホワイトヘッド(前期→後期 有機体論の哲学)
 科学哲学 ポパー(前期→後期 3世界論)→クーン(パラダイム論)
 危険社会(ベック) プラトンの場合よりも科学技術の限界の自覚が重要
 無神論的実存主義 サルトル→レヴィ=ストロース

- 2 原子論 相対性理論・量子力学
 将来世代問題・環境問題・経済的問題(外部不経済…)
 →全体論の必要性

③カルナップ、ライルの擬似科学・似非科学批判 現代における「無知の智」

④形而上学批判への反批判 ニーチェ→ファシズム→ネオ・コン

- ・ リオタール批判 マルクス主義的「大きな物語」失敗の原因の洞察の浅さ 唯物論、労働価値説、国家論、組織論、運動論
- ・ フーコー批判 真理の権力→権力の善用の可能性 権威
- ・ デリダ批判 概念の階層秩序的二項対立→新一元・二元論
 (エピソード:死に方の問題)

以上を通じて、真知の探究へ。単なる知性主義よりも智性主義 真知・深知——「智」
 →学問改革 形而上学中心主義 存在生成論

4 新総合哲学の基本構想

形而上学的な議論がなくなった分、現象については考察が豊かに→形而上学と共にすれば、活用可能

- 1. 存在生成論
- 2. 構造主義 深層構造
- 3. 現象学 思惟の志向性、本来性(ハイデガー)
- 4. 解釈学
- 5. 宗教的実存主義 存在論的「真理」と実存的「真実」の一致
- 6. 科学哲学 パラダイム論
- 7. 言語哲学 ホーリズム、言語ゲーム
- 8. 対話哲学
- 9. 超個心理学

⇒靈的社会科学 近代経済学・マルクス経済学→友愛経済学、
 権力・現実政治論(マキャヴェッリ、ホブズ)→友愛政治学
 マルクス・ヴェーバーを超えた靈的社会科学(spiritual social sciences)を
 政治術(技術・芸術) art of politics

参考:

- II (理念)理論哲学 真理

4. 存在生成論	存在の階梯: 1
5. 認識論	全体論的認識へ: 2、6、7
6. 科学論	理念科学、思惟科学、生命論
Ⅲ (理念)実践哲学	善
7. 実存論	自己論、成長論、人生論: 4、5、8
8. 美德論	思惟論、觀照(冥想)論: 3、9
9. 活動論	言語論、行為論、判断論: 7

(第1回レジメより)

5 学問改革のビジョン

(1)新世界アカデミー 新アカデミー

1994-11-17

(2)学問改革の要諦

ルター 宗教改革

1. 万人司祭主義、2. 信仰義認論、3. 聖書中心主義
キリスト者の自由

1. 哲学万人主義・万人哲人主義

2. 正思惟義認論→高思惟進化論

思惟、すなわち自己 →理念革命=「靈智革命」

3. 現代的「無知の知」→靈的「無知の知」へと発展

形而上学中心主義 存在生成論

愛知者の自由